

案件概要書

2013 年 6 月 25 日

国際協力機構中南米部中米・カリブ課

1. 案件名（国名）

国名： ニカラグア共和国

案件名： パソ・レアル橋建設計画（The Project for Construction of Paso Real Bridge）

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における防災セクターの開発実績（現状）と課題

ニカラグア共和国は、頻発する地震及びハリケーンの被害に見舞われており、中でも 1998 年のハリケーン・ミッチでは、ニカラグアにとって 9.87 億ドル（同年のニカラグア GDP 比 40%）の経済損失及び 3,300 人超の死者が発生した。

同時に、ハリケーン・ミッチがもたらした河川の増水・急激な濁流によって、首都マナグア市とニカラグア東北地域を結ぶ幹線道路（国道 21B 号線）上に位置するパソ・レアル橋が橋脚を含めて流失した。分断された交通復旧にあたって迂回路がないことから、従来の架橋位置から 300 メートル上流にコンテナを橋脚とした一車線の仮設橋（ベイリー橋）が応急的に設置されたものの、対面通行ができないことに加え、不安定な構造であることから通過車両の重量を制限せざるを得ず、十分な輸送量を確保することができていない。また、ニカラグアでは国際及び国内物流の 68%、輸送人員の 98%が道路による陸上輸送に依存していることから、当該橋梁における円滑な運輸・交通の復旧が周辺地域の社会・経済発展にとって必要である。

(2) 当該国における防災セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

2009 年にニカラグア政府が策定した「国家人間開発計画（改訂中）」の戦略的政策・プログラムとして、「気候変動適応策による自然災害被害軽減」及び「生産性向上のための道路や橋梁等経済インフラ基盤の整備」が掲げられており、本事業はこれらに寄与するものである。特に本事業の対象地域は農畜産品の主要生産地の一つであり、本事業を実施することによって、農畜産品の市場へのアクセスが改善され、同地域の経済発展に寄与することから本事業実施の必要性は高い。

(3) 防災セクターに対する我が国の援助方針

対ニカラグア国別援助方針の重点分野として「環境保全と防災」が定められており、本事業は当該方針に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

防災セクターでは、世界銀行、米州開発銀行等が主なドナーとなっている。本事業の対象である国道 21B 号線については、中米経済統合銀行（CABEI）の融資により、道路改修及び小規模橋梁改修が実施されている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、マタガルパ県の国道 21B 号線上において、仮設橋を恒久橋に架け替えることにより、耐荷重の増加や幅員の拡幅を図り、もって物流の促進及び円滑化に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

マタガルパ県マティグアス市

(3) 事業概要

- 1) 土木工事（国道 21B 号線上の仮設橋（80m）の恒久橋への架け替え）
- 2) コンサルティング・サービス（実施設計及び施工監理）

(4) 事業実施体制

事業実施機関： 運輸インフラ省

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類: B

② カテゴリ分類の根拠: 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等: 貧困削減効果として、社会サービスへのアクセスが期待される。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携: 本事業の対象橋梁が位置する国道 21B 号線の道路改修が、CABEI の融資により実施された。

(7) その他特記事項: 我が国の災害に強い土木技術に対し、自然災害に脆弱な同国政府からの信頼は厚い。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

ニカラグア国「主要幹線道路橋梁架け替え計画」の評価等では、「協力の効果を更に発現・発展させるために、事前の調査において関連する道路を整備するドナー等との更なる調整が望まれる」といった提言がなされている。

(2) 本事業への教訓

本計画で整備する橋の使用見込みをより明確にするため、協力準備調査の段階で国道 21B 号線の車両通行量（現状及び見込み）及び道路の舗装改良等整備状況について、他ドナーからの情報収集及び調整を行うこととする。

以 上

〔別添資料〕地図

プロジェクト関連 地図

